

機能毎の病床の状況について

病院名: 医療法人社団松下会 白庭病院 医療圏: 西和

※H28年度の列は、別紙1－3「H28年度病床数一覧」の数値を記入してください。
※R7年度、R8年度(2026年度)の列は、今年度の病床機能報告及び様式2の数値を記入してください。

			(a)	<R7年度> 許可病床数	うち、最大使用 病床数 (注1)	(単位: 床)	
			<H28年度> 許可病床数			(b)	(b-a)
						将来 (R8/2026年度) 病床数	H28年度からの 増減 (自動計算)
一般病床・療養病床	高度急性期						0床
	急性期	重症	100床	100床	91床	100床	0床
		軽症					0床
	回復期			50床	49床	50床	50床
	慢性期		50床				-50床
	休棟中 (今後再開する予定)						0床
	休棟中 (今後廃止する予定)						0床
	(合計)(自動計算)		150床	150床	140床	150床	0床
精神病床							0床
結核病床							0床
感染症病床							0床
介護医療院							0床

(単位: 人/日)	
1日平均 在院患者数(注2)	
1日平均 外来患者数(注3)	

※ 用語の定義は、病床機能報告と同様です。
(注1) 最大使用病床数
・1年間(R6.4.1～R7.3.31)に最も多く入院患者を収容した時点で使用した病床数のことです。

令和7年度 地域医療構想における具体的対応方針

1. 基本情報

病院名：医療法人社団松下会 白庭病院

医療圏：西和

2. 地域医療構想の実現に向けた自院の取組について

（1）これまでの地域医療構想や昨今の受領動向の変化、2040年頃を見据えた新たな地域医療構想の方向性を踏まえ、自院が地域で担う役割等について（現状と今後の方向性）

当院の役割として、地域住民に対する救急対応を含めた安心安全の医療介護提供があり、奈良県が地域医療構想のポリシーとして打ち出している“断らない医療”と“面倒見のいい医療”両方の機能を担っていきたいと考える。断らない病院の機能として、救急対応の充実、特に内科、整形外科、脳外科を中心に、広く一次、二次の救急に対応し、さらに高度な治療が必要な患者には近畿大学奈良病院、奈良県総合医療センターと連携している。また手術治療に関しては、整形外科・眼科・脳外科に対応し、年間約1400件の手術を行い、重症急性期の役割を果たしている。面倒見のいい病院の機能として、地域包括ケア病棟を利用し、高度急性期病院からのポストアキュートケアを担う。また、近隣の診療所・老健施設・介護事業所等からのサブアキュートケアに対応し、自宅へ退院後は、訪問診療部門（2024年度から開始）、訪問看護ステーションから在宅医療・介護を提供する。加えてレスパイト入院の受け入れも行い、地域と病院の切れ目のないケアを目指している。

（２）今後、増加が見込まれる高齢者救急への対応について

当病院の近隣地区は高齢化が進み、老老介護や単身高齢者も多いため、近隣自治会と定例会や医療セミナーを開催し、健康や医療・介護に対する最新の情報発信も大切な役割と考える。予防の観点からは検診にも力を注いでいる。常に地域のニーズを大切にして、良質な医療サービスを提供できる体制の確立、地域他病院と協力し地域包括ケアシステムの地域完結型医療に貢献したいと考える。当院は重症急性期病院として診療科の強みと特徴を生かした診療が出来る体制を整えており整形外科、眼科、脳神経外科の分野において地域の高齢者の治療を担っている。特に整形外科は脊椎・関節・手外科・外傷といったすべての運動器疾患・外傷を専門的に扱い手術件数も多い。眼科は、白内障手術はもとより、レーザー治療、硝子体手術もアクティブにおこなっており、脳神経外科は脳卒中を中心とした救急にも対応している。地域他病院にも同様の診療科があるが、同じ診療科の中でも専門性が違う部分があり、それぞれ特徴を活かして連携したいと考えている。また、地域包括ケア病棟への直接転院だけでなく、重症度が高い患者は一旦、当院急性期病棟での治療後、あらためて地域包括ケア病棟へ転棟することにも対応しており、高度急性期病院の後方支援も積極的に行いたいと考えている。

（３）今後、増加が見込まれる在宅医療需要への対応について

※提供体制強化や体制整備の予定等ありましたら合わせてご記載ください

当院は、訪問診療、訪問看護を行っているが、法人内施設として回復期リハビリテーション病棟を持つ施設、介護施設、訪問診療、訪問看護、訪問リハを所有していることから自院だけではなく他施設から紹介を受けた患者に対しても希望に応じた医療提供を継続していく。

（４）今後の医療従事者の確保や医療提供の維持に向けた方策、検討の状況について

※医療DX、タスクシフト・シェア等の取組状況がありましたら合わせてご記載ください

当院ではすでに電子カルテの導入をしており、その中で入院サマリーの作成など生成AIの導入による業務負担軽減を積極的に図っている。また、病棟には電子カルテ用モバイルパソコンに加えタブレット端末を導入しつつあり、情報共有の効率化を図っている。またほぼすべての外来診療に医師事務補助を導入しており、医師が診療に集中できるような環境を整えている。

3. 各領域の対応状況について

※以下[1]～[15]の領域の今後の方向性について記入してください。
※選択肢については、あてはまるものにチェックをつけてください。

[1]がん

[1-1]当該領域について対応しているか？

☒ はい

[1-2]手術の実施

手術対応していない

[1-3]化学療法の実施

☒ はい

[1-4]放射線治療の実施

実施していない

[1-5]拠点病院等の指定

指定されていない

[1-6]特記事項

がん診療に関しては、各種内視鏡、3.0テスラMRIや320列CTなど高度な医療機器を用いた確実な診断を行うことができ、それが主な当院の役割と考えている。がん手術に関しては、外科常勤医師1名、泌尿器科非常勤医師1名体制のため難しく、近隣の高度急性期病院（奈良県総合医療センター・近畿大学奈良病院）との連携で対応したい。

[2]心筋梗塞等の心血管疾患

[2-1]当該領域について対応しているか？

—

[2-2]24時間心血管疾患の急性期医療の実施

—

[2-3]緊急心臓カテーテル検査及び治療の24時間365日実施

—

[2-4]経皮的冠動脈形成術もしくは経皮的冠動脈ステント留置術の実施

—

[2-5]心疾患に対する外科手術の実施

—

[2-6]冠動脈バイパス手術の実施

—

[2-7]急性大動脈解離の手術の実施

—

[2-8]大動脈瘤手術の実施

—

[2-9]心血管疾患等への早期リハビリ

—

[2-10]特記事項

常勤の循環器内科専門医師が不在のため高度急性期病院との連携強化に努める。

[3]脳卒中等の脳疾患

[3-1]当該領域について対応しているか？

○ 対応している

[3-2]脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施

○ 対応している

[3-3]脳梗塞に対する脳血管内治療(経皮的脳血栓回収術等)の実施
実施していない

[3-4]脳出血（くも膜下出血を含む）への対応

○ 対応している

[3-5]くも膜下出血に対する脳動脈クリッピング術

○ 対応している

[3-6]くも膜下出血に対するコイル塞栓術
実施していない

[3-7]脳出血に対する開頭血腫除去術

○ 対応している

[3-8]脳血管疾患等への早期リハビリ

○ 対応している

[3-9]特記事項

脳神経外科常勤医師3名体制であり、人員維持に努め現在行っているt-PAなどの保存的治療から開頭手術の件数増大、一次脳卒中センター（PSC）への参加継続に努める。
また、脳血管疾患等への早期リハビリも取組み、同法人内の東生駒病院（回復期リハビリテーション）と密な連携を行い、患者さんの病後のQOL向上に努める。

[4]救急医療

[4-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[4-2]救急告示病院の指定を受けているか？

受けている

[4-3]大腿骨骨折への対応

対応している

[4-4]病院群輪番制への参加

参加している

[4-5]小児科病院二次輪番体制への参加

参加していない

[4-6]特記事項

病院群輪番制への参加継続、救急医療の知識と経験が豊富な専門医が従事していることから、二次救急医療機関としてスムーズに救急患者の受入ができるように体制を整える。

特に脳神経外科疾患、切断指再接着を含む整形外科外傷にも対応しており、外傷系の救急搬送受け入れに対しても貢献に努める。

また、奈良県総合医療センター ERシステムの生駒市における後方支援病院に登録をしており、積極的な連携を行っている。

一方で休日、時間外における当直体制は単科当直のため疾患内容によっては受け入れができないこともあるため、市内公的病院と連携していく必要がある。

[5]リハビリ

[5-1] 当該領域について対応しているか？

[5-2]回復期リハビリ病棟入院料届出の有無

無し

[5-3]上記が有りの場合、届出病床数

[5-4]訪問リハビリの実施

[5-5]通所リハビリの実施

主 席 ;実施していない

[5-6] 今後の方向性

当院で急性期医療を受ける患者に対して、その疾患特性や障害の内容に合わせて発症後早期、手術後早期からリハビリを積極的に行い、個々の患者さんの状態に応じた、テーラーメイドのリハビリメニューを処方している。理学療法だけでなく作業療法、言語聴覚療法においてセラピストが充実しており、超急性期で切れ目のないリハビリ介入が必要な患者へは、平日のみでなく土日祝もリハビリテーションを提供、手術患者の退院後の外来リハビリや訪問リハビリも実施している。

また、地域包括ケア病棟においても自宅退院に向けた適切なリハビリを行い、介護保険分野の事業所とも連携を密に、円滑かつシームレスな在宅支援を提供している。

当院での急性期治療後に集中的なリハビリが必要な患者については、近隣の回復期リハビリテーション病院と連携して治療にあたっている。その際、治療早期から回復期リハ病院への転院支援を行い、施設間で情報共有を行っている。

今後は、セラピストの増員を図り、365日の急性期リハビリテーションへの対応し、退院後の患者が安心した生活を送っていただけるよう患者・家族と介護保険分野の事業所等の良好な関係構築にも努める。

[6]在宅医療

[6-1]当該領域について対応しているか？

※ここで言う在宅医療は「在宅医療の提供」「他医療機関等との連携」「後方支援」を含む概念とします。

[6-2]在宅療養支援病院の届出の有無

有り

[6-3]在宅療養後方支援病院の届出の有無

無し

[6-4]特記事項

2024年4月より医師2名体制で訪問診療部門を立ち上げ活動しており、本年12月から3名体制(1名は院内と兼務)を計画している。病院内に訪問看護ステーションも併設し、また近隣の訪問診療クリニックや訪問看護施設とも連携して、今後増えるであろう在宅医療のニーズに答えたいと考えている。また、在宅で急変時には迅速に当院での入院対応が可能であり、切れ目のない地域医療に貢献できると考えている。

[7]訪問看護

[7-1]病院看護師が当該領域について対応しているか？

○ 対応している

[7-2]同一法人内に訪問看護ステーションをもっているか？

○ ない

[7-3]上記でありの場合、その名称

[7-4]特記事項

介護支援専門員等と連携し病状の変化があれば24時間365日訪問看護の提供が可能な体制を確保している。

当院訪問診療部門やたの訪問診療を行っているクリニックと連携し、地域の利用者さんの暮らしを支えるため活動範囲を広げ、多くの方を支援できるように努める。

[8]ACP（アドバンス・ケア・プランニング）への取組

[8-1]「適切な意思決定支援に関する指針」（「適切な看取りに対する指針」）について
定めている

[8-2]特記事項

当院では「適切な意思決定支援の指針」を定めており、患者様やご家族の皆様のご意思を尊重するとともに、その意思決定が出来るように適切な支援を行っていく。

当院版「人生の最終段階における医療・ケアの対応指針」を策定中で、あらためて倫理委員会において内容を検討する。

[9]小児医療

[9-1]当該領域について対応しているか？

[9-2]小児入院医療管理料の算定

—

[9-3]新生児特定集中治療室管理料の算定

—

[9-4]医療的ケア児を受け入れている

—

[9-5]特記事項

今後も開設予定はないことから他施設で担っていただきたい。

[10]周産期医療

[10-1]当該領域について対応しているか？

〇 対応している

[10-2]分娩の取扱い

—

[10-3]ハイリスク分娩管理加算の算定

—

[10-4]特記事項

今後も開設予定はないことから他施設で担っていただきたい。

[11]災害医療

[11-1]当該領域について対応しているか？

—

[11-2]災害拠点病院の指定を受けているか？

—

[11-3]DMAT指定病院の指定を受けているか？

—

[11-4]E M I S（広域災害救急医療情報システム）への参加

—

[11-5]特記事項

大規模災害発生時における病院前救護所の設置について生駒市と協議中。

[12]へき地医療

[12-1]当該領域について対応しているか？

[12-2]へき地医療拠点病院の指定を受けているか？

—

[12-3]特記事項

医師、看護師等医療スタッフが充足されていないことから巡回診療や診療所への応援、派遣は難しい状況であるが、依頼があれば可能な限り検討する。

[13]医師の研修・派遣機能（臨床研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能）

[13-1]当該領域について対応しているか？

—

[13-2]基幹型臨床研修病院の指定を受けているか？

—

[13-3]協力型臨床研修病院の指定を受けているか？

—

[13-4]臨床研修協力施設であるか？

—

[13-5]専門研修の基幹施設であるか？

—

[13-6]専門研修の連携施設であるか？

—

[13-7]特記事項

整形外科はすでに専門研修プログラムを実施している。眼科も手術症例が豊富であることから引き続き関連大学との連携強化に努め専門医研修施設として積極的に医師を受け入れたい。

[14]医師の働き方改革

[14-1]医師の宿日直許可の取得状況

取得済み

[14-2]上記で一部の場合、その範囲

取得済み

[14-3]特記事項

当院はA水準を維持しており、また医師クランクの導入などタスクシフトも積極的に行い、医師の負担軽減に努める。

[15]看護職員の研修機能

[15-1] 特定行為研修の指定研修機関の指定申請予定はあるか？

ない

[15-2] 特定行為研修の協力施設の申請予定はあるか？

ない

[15-3]特記事項

—